

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

1. 公開授業について

昨年度から授業の中で「個人的活動」と「集団的活動」を取り入れ、自分の意見をアウトプットすることを実践できような授業をつくりたいと考え、模索している。自分の意見をアウトプットすることで「表現力」「思考力」「創造力」を身につけ、学力向上につなげていくことができるのではないかと考えている。

今回の授業公開では「個人的活動」を中心に行い、提示された画像がどこの画像かをネットを活用して調べる課題に挑戦した。その中で留意した点は調べたい情報にたどり着くまで余計なヒントを与えずに十分な時間を確保することである。その理由として、指導側が答えに誘導し、答えを教えてしまうなど、生徒の「考えたい・やりたい」という気持ちをそいでしまうことが多くあるからである。生徒の学習意欲を高めるためにも「待つ」ということを昨年度から意識して授業をしている。また、「個人的活動」として自分自身が考える情報格差対策について4つの項目を上げ対策をまとめた。自分の意見をアウトプットすることで、表現力の育成につなげていくことができないと考えている。その中で留意した点は「間違いはない」ということを生徒に意識させることである。生徒は自分の考えではなく正しい答えを書こうとすることがある。そのため、ネット調べたことや教科書に書いてあることを自分の意見としてまとめ、提出する傾向がある。このような文章をつくることをさせないために、授業のなかでは常に「間違いはない」「すべて正解」ということを伝え、生徒が頭の中で考えていることを自分以外の人が見てもわかる文章にすることを意識してまとめることを大切にしている。

また、「待つ（時間をかける）」ことができるのは受験科目ではない強みだと私自身は考えている。以上が公開授業で意識した点である。

2. 生徒が使用した題材

- 1) サンプル画像による画像検索→某大学の校章
- 2) iPhone の価格調べ
- 3) 文科省の HP から「インターネット利用者数」

URL : <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd252120.html>

- 4) 情報格差対策の作成

○地域による差 ○経済による差（収入の差） ○スキルによる差 ○国による差

3. まとめ

現在、県内に1名しか教諭がおらず、研究発表や公開授業などは県外で行われている全国大会や各研究団体が行っている会場に行くことでしか参加することができなかった。しかし、今回のような事業で教科「情報」の内容で先生方と「主体的・対話的で深い学び」について協議することができ、ありがたい機会であった。

今後の取組としてはプログラミング教育の中で「主体的・対話的で深い学び」になる授業を考えていきたい。現在の小学校ではプログラミング教育が導入されている。プログラミングを学習した生徒が高校に入学してくる2022年である。その時に、生徒にとってプログラミングを活用した学びとは何か、またどのように授業を展開すればよいかをこれから模索し、指導者側がプログラミングについてスキルを身につけなければならない。今後の情報科として課題となる。